

## 平成22年度 学校評価計画に対する中間評価報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策等)
<b>1 学習指導の充実</b>  分かり易い授業づくりに努め基礎基本を定着する。  授業に生徒が積極的に参加する。  習熟度別少人数指導を活かして学力向上を図る。	研修受講や研究授業・互見授業を計画的に実施して授業力を向上させる。	教務課 教科	研修会や研究授業・互見授業で会得したことを自分の授業改善に A：大いに役立てた B：ある程度役立てた C：あまり役立てていない D：役立てていない	A + B = 80%未満の場合は、改善策の実践に努める。	教員アンケート (H22.7実施)  A+B：85.7%	A：47.6% B：38.1% 研修の受講内容をもとに授業改善に取り組んでおり、その効果が徐々に表れてきている。生徒とのコミュニケーションや授業のねらいが明確にすることが大切で、生徒の満足度が高くなるように互見授業などを積極的に行う。
	授業で生徒の言語活用力がつく場面を創る。	教務課 教科	授業で生徒が活動する機会は A：授業への意欲を高めた B：授業への意欲をある程度高めた C：授業への意欲を高めない D：わからない	A + B = 70%未満の場合は、指導法の改善に努める。	生徒アンケート (H22.7実施)  A+B：47.4%	A：11.3% B：36.1% 講義形式の授業ではなく生徒が活動する場面が多い授業形態を継続する。生徒の意欲を高める活動の工夫や自信のない生徒に対してワークシートなど工夫して、主体性のある授業を実践する。学習活動と知識・理解の習得を結びつけていくことが課題である。
	授業の理解を深めるために適切・適量の課題を与える。	教務課 教科 学年	家庭学習が60分以上の生徒が A：40%以上であった B：30%以上であった C：20%以上であった D：20%未満	C、Dの場合指導の方針を検討する。	生徒アンケート (H22.7実施)  C：23.7%	全体の平均学習時間は49分である。家庭学習が全く定着していない生徒もいる。個々の生徒に対応した課題の内容・量の精選が必要。各教科で授業方針を再検討し家庭学習が定着するように見直す必要がある。
	習熟度別少人数授業により学力の定着と学習意欲の向上を図る。	教務課 教科	習熟度別少人数授業について私は A：研修内容を積極的に実践した B：研修を受け、部分的に実践した C：研修を受けたが実践はしなかった D：研修も実践もしなかった	C、Dの場合研修を生かす指導実践を促進する。	教員アンケート (H22.7実施) A：52.4% B：47.6%	研修内容などの情報を教科で共有して、積極的に実践する必要がある。習熟度の利点を生かして、生徒が主体的に学ぶ場面が多くなるように工夫すべき点が多い。
	学習姿勢の向上を目指して保護者にも協力を求める。	総務課 学年	子供の学習状況は A：昨年度より良い B：昨年度と変わらない C：昨年度より悪い D：わからない	C、Dの場合取組の方針を検討する。	保護者アンケート (H22.7実施) A：66.2% C：33.8%	進路志望を目標として学習する生徒が増えた。三年生は昨年度より学習意欲が向上している。「学び直し」「学び進め」をきめ細かく行い、生徒の学習意欲を高めていく。
<b>2 基本的生活習慣の徹底</b>  適切なことば遣いを推奨する。  礼儀作法・コミュニケーション能力を向上させる。	教員が登校・巡回指導を行い、日常生活についてもきめ細かな指導を行う。	生徒指導課 学年	挨拶励行やきめ細かな生活指導で成果が A：大いにあった B：あった C：ある程度あった D：ほとんどない	A + B = 90%未満の場合は指導方針を検討する。	教員アンケート (H22.7実施)  A+B：100%	A：38.1% B：61.9% 心のこもった挨拶ができるように地道に指導していく必要がある。教員による指導の差がない、コミュニケーション・信頼感のある指導を行う。
	ことば遣いやマナーの指導を行い、様々な場面で挨拶を交わす指導を行う。	生徒指導課 学年	きちんとした挨拶をし、ことば遣いに注意している生徒は A：90%以上 B：80%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	生徒アンケート (H22.7実施)  B：85.6%	良い：43.3% やや良い：42.3% 挨拶や丁寧な言葉遣いが習慣化してきている生徒が増えてきている。しかし、学校全体で言葉遣いやマナーに取り組んでいる雰囲気をもっと作りだしていくべきである。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準		分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策等)
健康で安全な学校生活を推進する。	保護者との連絡を密にして、遅刻を減らす。	生徒指導課 学年	遅刻常習・欠席がちの生徒は昨年度より A：半減した B：微減した C：変わらない D：増えた	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	生徒アンケート (H22.7実施)  C	生徒指導課を中心とした毎朝の登校指導などにより、高学年になるにつれて時間を守るという意識や習慣は着実に身に付いてきている。
	部活動の全員加入を推進し、部活動の活性化を図る。	生徒会課 学年	部活動に積極的に取り組んでいる生徒は A：70%以上 B：65%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	生徒アンケート (H22.7実施)  A：75.6%	良い：38.3% やや良い：37.3% 生徒はある程度の満足感が得られているが、さらに魅力のある部活動にするための改善が必要である。部に加入はしているが活動に消極的な生徒も見られる。
	生徒理解のための研修等に積極的に参加し、外部相談機関との連携を図る。	厚生課 学年	心的支援等の研修が参考となった教員は A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合内容を検討する。	教員アンケート (H22.7実施)  A：90.5	良い：66.7% やや良い：23.8% 生徒への具体的支援を受けることができた。スクールカウンセラーの導入により、専門的な助言を得ることができた。さらに、より実践的な支援方法を学ぶ研修を充実させる。
3 <b>キャリア教育の推進と進路実現</b>  キャリア学習を通して進路意識を高める。  各種資格取得を奨める。  就職・進学とも希望進路100%達成を目指す。	企業訪問・大学見学・インターンシップ等を通して進路意識を高める。	進路指導課 学年 教科	学年毎のキャリア学習が進路選択に A：大いに参考になっている B：いくらか参考になっている C：あまり参考としていない D：わからない	C、Dの場合指導のあり方を検討する。	【年度末】	キャリア教育は適切に行われているか。 教員 A：47.6% B：42.9% 生徒 A：23.2% B：47.9% 保護者 A：31.3% B：57.8% H22.7実施のアンケート結果である
	資格取得に積極的に取り組み、進路意識を向上させる。	進路指導課 学年	資格取得希望者の延べ合格率は A：60%以上 B：55%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合補習のあり方を検討する。	【年度末】	9月現在の合格率は 情報処理検定 79.5% ワープロ検定 62.1% 漢字検定 15.4% 計43.5%
	進路実現を図るために個人面談を効果的に実施する。	学年	面談で十分な進路指針を得られた生徒は A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	Dの場合、面談体制を検討する。	【年度末】	9月現在の各学年の個人面談の回数は平均3回程度である。さらに面談を重ねることで、進路について真剣に考える機会を数多く与え、進路の方針を深めていく。
	就職希望者の進路実現を100%達成する。	進路指導課 学年	生徒の希望する進路の決定率が A：100% B：96% C：93% D：93%未満	Dの場合、指導と支援のあり方を検討する。	【年度末】	
	小論文指導を充実させて進学・就職試験に対応する確かな力を身に付けさせる。	進路指導課 学年 教科	小論文指導に積極的に取り組めた教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合指導方法の見直しを行う。	【年度末】	夏季休業中に行われた小論文指導講習会には80%の教員が参加した。小論文の技術的な部分とともに、生徒の進路や個性・適性を面談を通して指導していくことが重要である。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準		分析(成果と課題)及び今後の取組(改善策等)
4 <b>地域に信頼される学校づくりと人づくり</b>  広報活動を充実する。  地域社会と連携し地域の教育力を活用する。  身近な環境の美化を推進する。  読書習慣をつける。	P T A行事をはじめ、各種学校行事への参加を呼びかける。	総務課 学年	教育方針やP T A活動に保護者は A : 大いに満足している B : ある程度満足している C : やや満足している D : 不満である	C、Dの場合開催要領について検討する。	保護者アンケート (H22.7実施) A : 26.2% B : 67.7%	昨年度より学校教育やP T A活動への保護者の意識は高いと思われる。配布物に対する返事の回収率があまり良くないなど、発信している内容が手元に届くためのための工夫が必要である。
	宝高だよりや各課学年情報をHPでも発信し教育活動を保護者に理解してもらう。	総務課 進路指導課 生徒指導課 厚生課 学年	HPで広報を発信した回数が A : 30回以上 B : 25回以上 C : 20回以上 D : 20回未満	C、Dの場合取組について検討をする。	教員・保護者アンケート (H22.7実施) D	各種便りや学校行事、部活動の様子を昨年度より積極的にホームページを利用して発信している。 さらに、充実した内容になるように工夫・改善を行っていく。
	施設訪問やボランティア活動を通して社会参加の意識を高める。	総務課 学年	ボランティア活動などを通して社会参加の意識が A : 大いに向上した B : やや向上した C : あまり向上しなかった D : わからない	A + B = 60%未満の場合工夫・改善を図る。	【年度末】	上半期の実践活動は ・各部活動主催による施設の慰問 ・野球部、生徒会による駅の清掃 ・各ホームによる学校外清掃 ・外部ボランティア団体への参加 ・宝達山クリーン登山(10月7日)
	清掃活動や日頃の整理・整頓に心がけ校舎内の美化に努める。	厚生課 学年	教室が整理・整頓されていると感じる生徒が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満	C、Dの場合新たな取組を検討する。	生徒アンケート (H22.7実施)  D : 52.6%	良い : 13.9% やや良い : 38.7% ゴミの放置などは少なく学校全体とすればきれいに清掃されている。教室内のロッカーの中の整理はクラスによって差がある。指示待ちで清掃する生徒が多いので、環境整備委員会の活性化を図るとともに、美化に対する生徒の意識を高められるような工夫を行う。
	読書習慣の定着を図り、読解力、表現力や豊かな感性を育む	教務課 生徒会課 国語科 学年	学校での読書活動を通して読書習慣が A : 身についた B : やや身についた C : 少し身についた D : 身につけていない	C、Dの場合新たな取組を検討する。	生徒アンケート (H22.7実施) A : 30.4% B : 38.1%	年5回行われている朝読書週間によって生徒が活字や本にふれる機会を確保している。休憩時間や放課後に読書する生徒の姿をよく見かけるようになってきている。